県内高等教育機関に関するアンケート調査

速報版（令和６年 11 月 19 日時点）

静岡県スポーツ・文化観光部総合教育局大学課

目　次

Ⅰ　調査概要…… 1
（1）　調査目的……1
（2）　調査対象……1
（3）　調査方法……1
（4）　調査期間……1
（5）　回収状況……1
（6）　報告書の見方……1

Ⅱ　調査結果
（1）　市町アンケート……2

Ⅲ　資料編…… 8

Ⅰ　調査概要

（1）　調査目的

県内市町における県内大学等に対する期待や要望、連携実績等について把握するため。

（2）　調査対象

県内市町

（3）　調査方法

各市町に対して依頼

（4）　調査期間

令和 6 年 8 月 13 日～令和 6 年 8 月 30 日

（5）　回収状況

	回収数
県内市町	35 件

（6）　報告書の見方

1　結果は、百分率で表示し、小数第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を 100%とするのを原則とした。

2　図表中の「-」は回答者が皆無のもの、「0.0」は回答者の割合が 0.05%未満のため四捨五入の結果 0.0%となったものである。

3　一人の対象者に 2 つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者（n）で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数を M.T.（Multiple Total の略）として表示した。

Ⅱ　調査結果

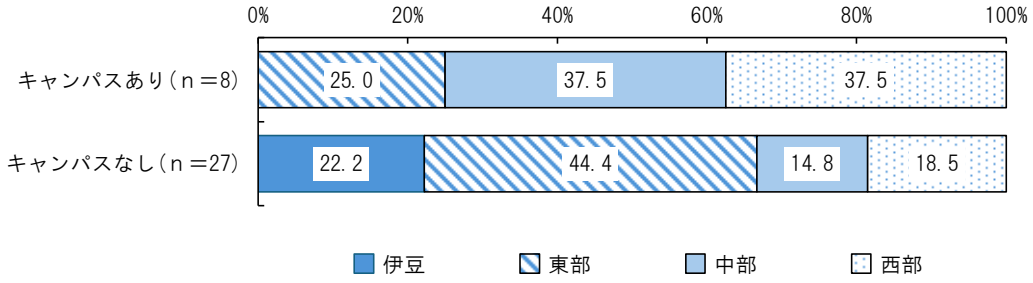
（1）　市町アンケート

1　分析結果

キャンパスの有無別

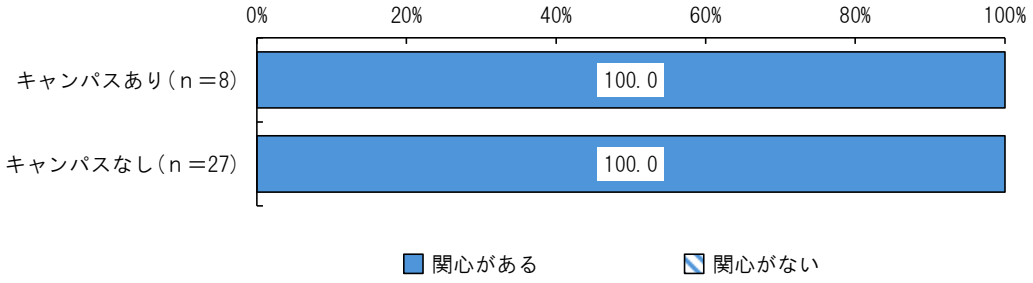
【圏域】

・４圏域



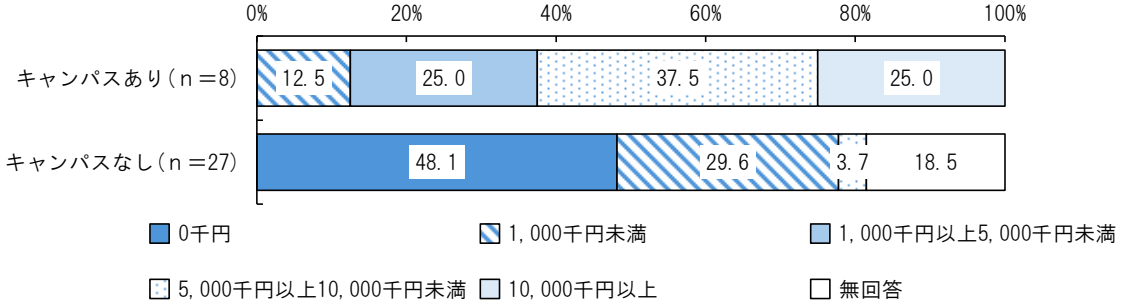
県内の高等教育機関は東部、特に伊豆地域に少なくなっている。

【県内大学等への関心】



県内大学等への関心は、キャンパスの有無にかかわらずすべての市町で関心がある。

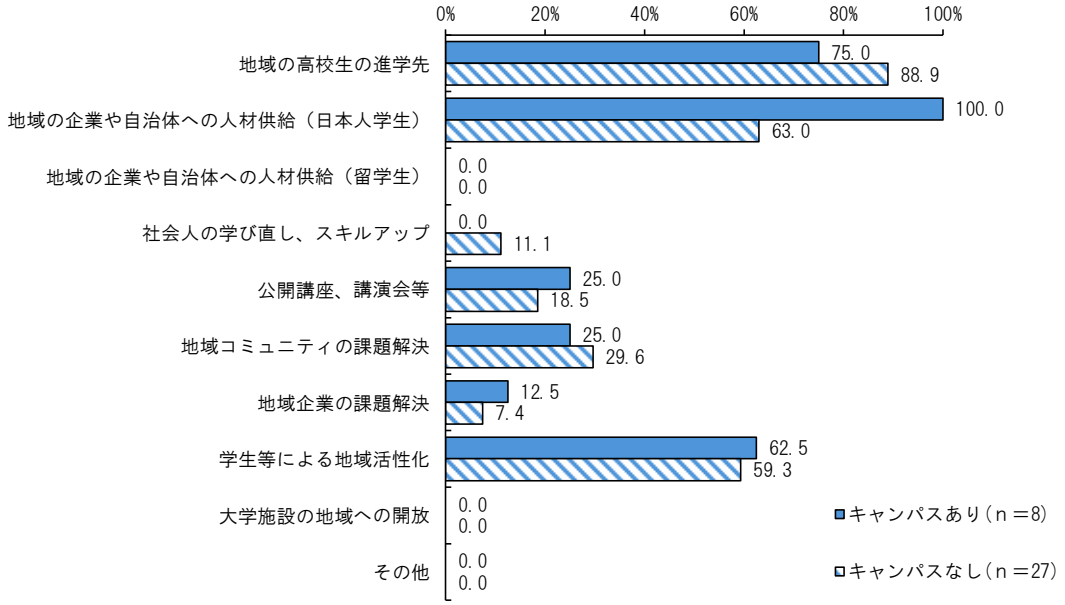
【連携に係る令和６年度予算額】



連携に係る令和６年度予算額は、キャンパスのある市町の方がない市町よりも予算が高い傾向にある。

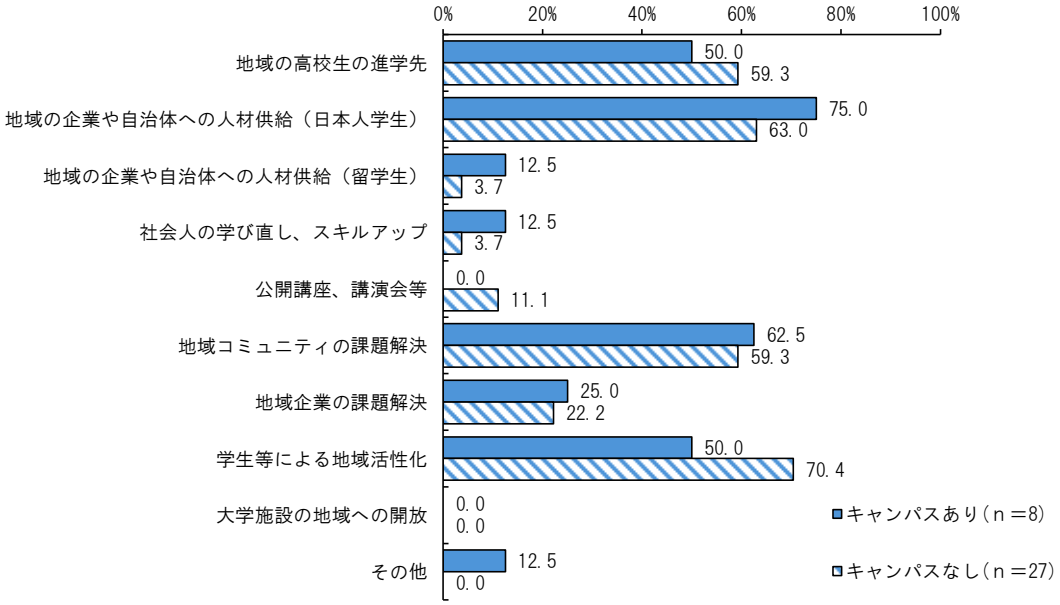
県内大学等に対する評価と期待

【地域の高等教育機関として、特に地域に貢献していると考えるもの】



地域の高等教育機関として、特に地域に貢献していると考えるものは、キャンパスのある市町では「地域の企業や市町への人材供給（日本人学生）」が高く、ない市町では「地域の高校生の進学先」が高くなっている。

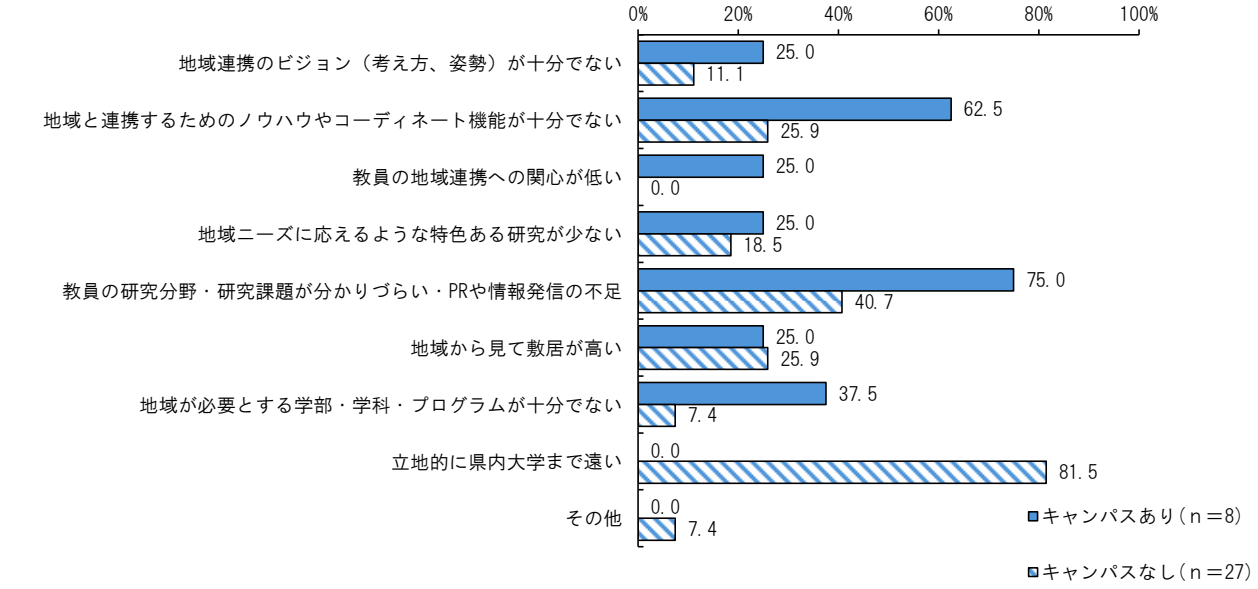
【地域の高等教育機関として、特に地域への貢献を期待するもの】



地域の高等教育機関として、特に地域への貢献を期待するものは、キャンパスのある市町では「地域の企業や市町への人材供給（日本人学生）」が高く、ない市町では「学生等による地域活性化」が高くなっている。

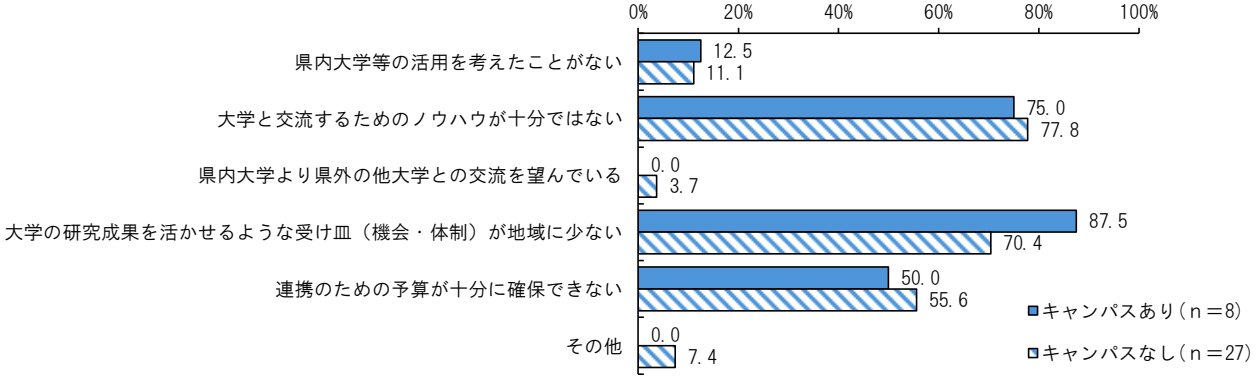
県内大学等と地域社会が連携する上での改善点等

【大学の側にあると思われる改善点等】



大学の側にあると思われる改善点等は、キャンパスのある市町では「教員の研究分野・研究課題が分かりづらい・PR や情報発信の不足」や「地域と連携するためのノウハウやコーディネート機能が十分でない」が高く、ない市町では「立地的に県内大学まで遠い」が高くなっている。

【地域の側にあると思われる改善点等】

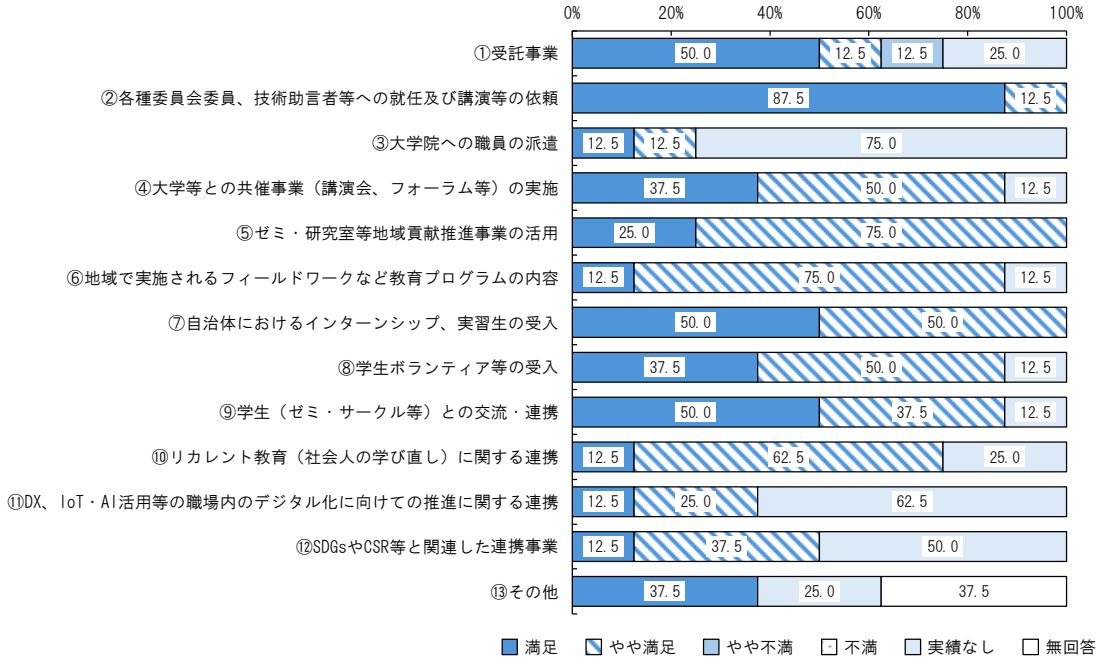


地域の側にあると思われる改善点等は、キャンパスのある市町では「大学の研究成果を活かせるような受け皿（機会・体制）が地域に少ない」が高く、ない市町では「大学と交流するためのノウハウが十分ではない」が高くなっている。

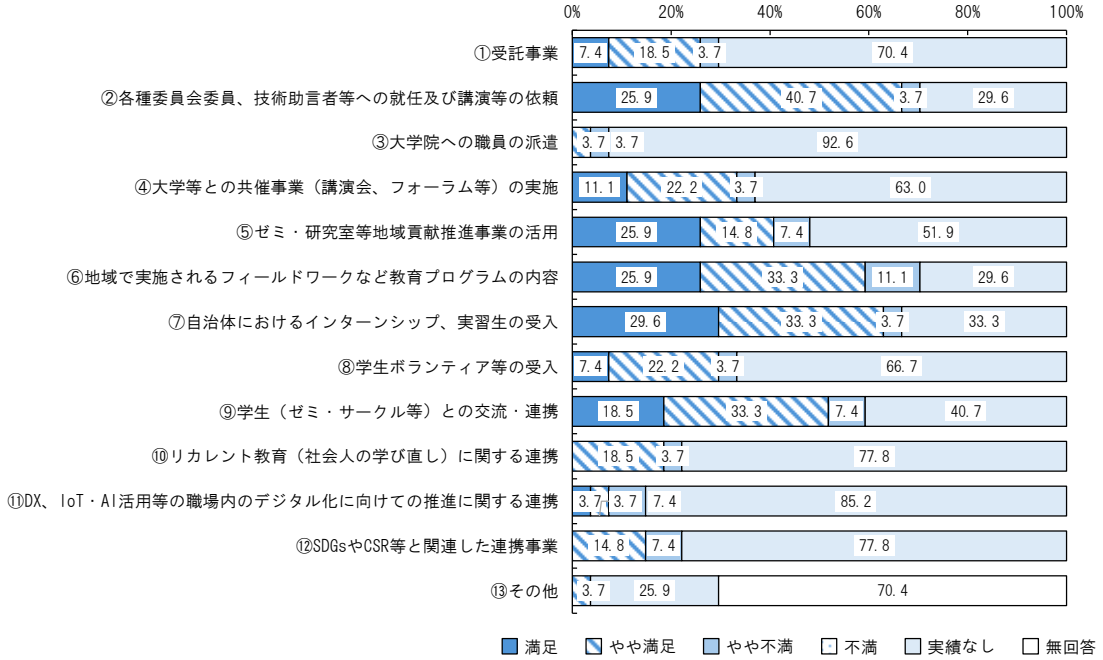
県内大学等との連携事業

【県内大学等との連携実績及びその満足度】

・キャンパスあり（ｎ＝８）



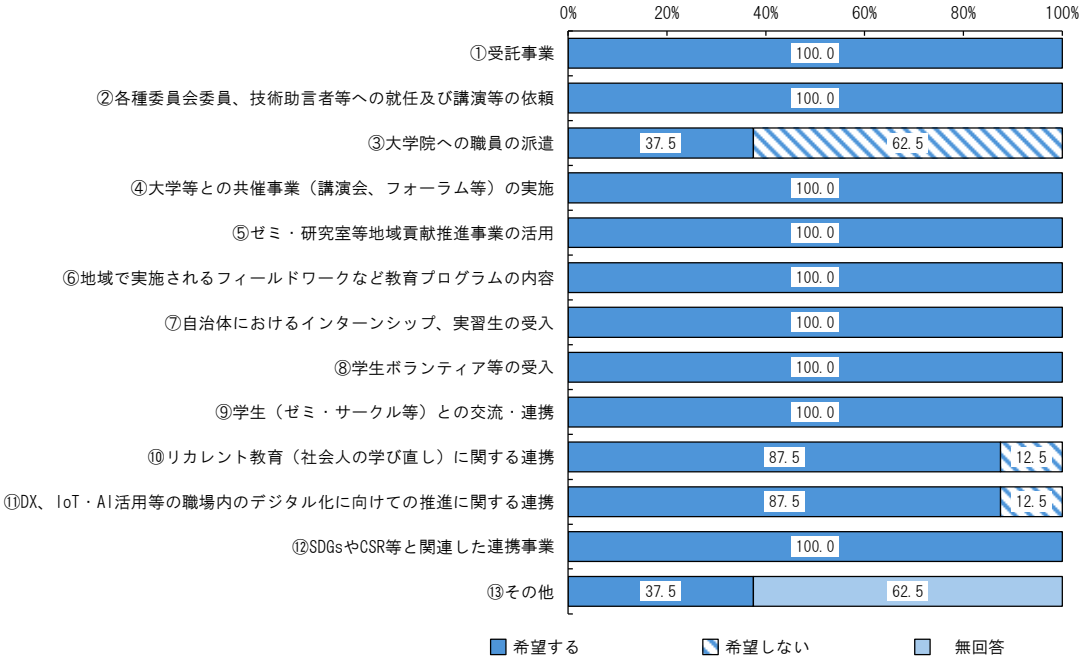
・キャンパスなし（ｎ＝27）



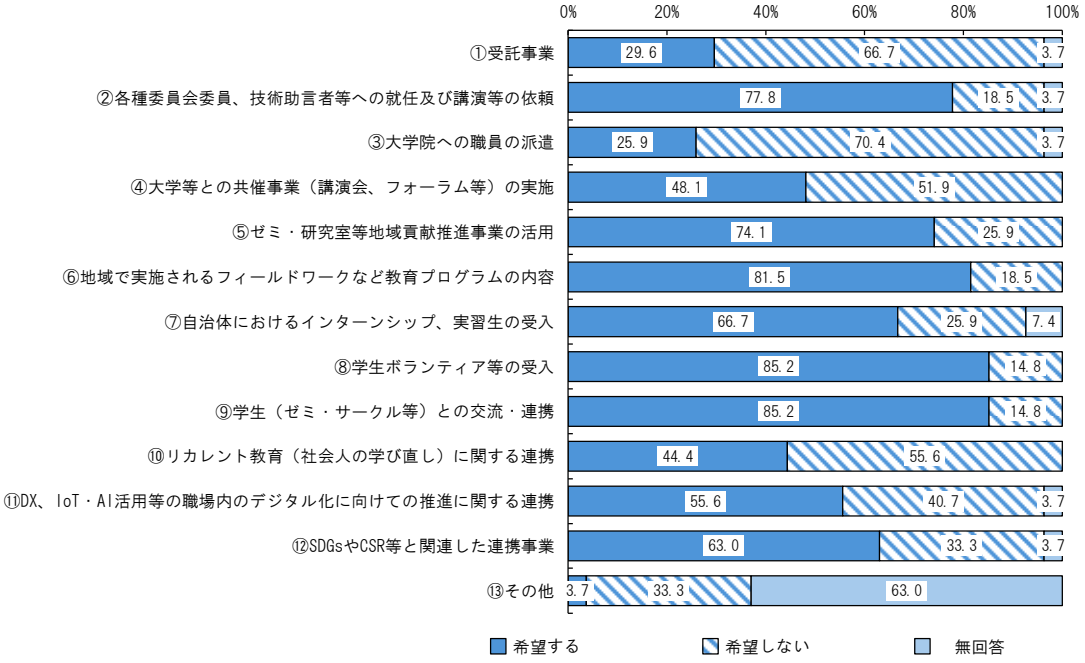
県内大学等との連携実績及びその満足度は、キャンパスの有無にかかわらず「各種委員会委員、技術助言者等への就任及び講演等の依頼」の満足度が高く、「大学院への職員の派遣」の実績が少なくなっている。また、キャンパスのない市町では全体的に実績が少なくなっている。

【県内大学等と今後連携を希望する取組】

・キャンパスあり（ｎ＝８）



・キャンパスなし（ｎ＝27）



県内大学等と今後連携を希望する取組は、キャンパスのある市町では「大学院への職員の派遣」を除いたすべての取組の希望が高くなっている。キャンパスのない市町では「学生（ゼミ・サークル等）との交流・連携」、「地域で実施されるフィールドワークなど教育プログラムの内容」、「学生ボランティア等の受入」の希望が高くなっている。

【今後、地域活性化のため県内大学等に期待したいこと（自由記述）】

・観光を軸とした地域活性化や人口減少等の課題に対して、大学生ならではのアイデアを生かした取組等に期待したい。
・国内外の人材を受け入れ、起業家精神を持って社会課題に挑戦する人材を育成するなど、新たな価値を生み出す基盤となって欲しい。
・キャンパスから離れた地域における学生イベントの開催
・高齢化社会における保健事業・介護予防事業等の調査・研究
・大学等の連携による「実務的」なリスキリングの機会の創出
・外国人留学生の受け入れ拡大
・ICT 活用等に関心のある学生による情報発信、調査分析や解決手法の提案の共有
・学生の専門的な学びを地域に還元する学生主体の生涯学習講座の実施
・地域活性化や地域課題の解決を目的に活動する学生団体の設立・活動支援

【どうすれば県内大学等と地域社会の連携が進むか（自由記述）】

・お互いに活動内容や求めていることが不明確であるため、明確化することが重要。
・地域と大学のコミュニケ-ションが重要であり、多様な連携の存在を意識した、深いレベルでの意思疎通を図る必要がある。
・地域と大学の情報交換を活発化し、お互いがつながる手段・知る機会を充実させて、それぞれに持つ資源やニーズを活用できる仕組みの構築を図る
・県内大学等は地域に「何ができるのか」を周知することが求められている。
・連携推進には、大学と疎遠な地域の側の責任も大きいと自覚しているが、「敷居が高い」と感じている小規模市町には、大学側から積極的にアプローチして欲しい。
・県内大学等と連携した経験が少ないため、新たに連携を検討しようとしてもハードルが高く感じるため、県内大学等と他の地域が連携した例やその方法・過程が広く共有されることで、連携のハードルが下がり、より連携が促進される。
・大学等と地域社会との双方にメリットがなければ連携は進まない。大学等と地域の連携をコーディネートする人材や組織が大学等と地域のそれぞれにあること、双方の顔が見える関係性を維持していく取組が必要である。
・大学側、地域側（市町）双方が連携できるプラットフォーム（全県版）の構築（特定の大学×市町との連携はみられるが、オープンに参加できる仕組みづくり）
・東部や伊豆地域にサテライトキャンパス機能を置くなど、距離が近くなることで東部地域の市町と県内大学の連携は進むと考える。サテライトキャンパス設置に関する費用面でも、県からの支援等があると設置が進むと考える。
・大学と連携を進めていくためには、予算も必要になるため、県内大学と市町が連携して事業を行った場合に、半額を県が助成する制度を創設するなど、費用捻出について県の支援があると連携が進めやすくなる。
・地域の課題解決に焦点を当てたカリキュラムの拡充を期待する。地域住民との対話や、地域活動への参加を通して、地域の実情を理解し、課題解決に向けた具体的なアクションを経験できるような機会の創出が課題である。

Ⅲ　資料編

（1）　市町アンケート

調査票

地域社会における静岡県内大学の役割等に関するアンケート

文部科学省の推計によると、**2023年に63万人**いた大学入学者数は、**2040年には51万人程度に減少**し、現在の大学の定員数の８割程度しか埋まらない計算になります。今後、大学の撤退や縮小など規模の適正化が始まり、大学、特に地方大学の淘汰が進むことも予想されます。

一方、地方大学は地域の大学進学希望者の受皿となっており、地元経済や社会を担う中堅人材を地域に輩出しております。

人口減少により、地方大学が淘汰されれば、地域の大学進学希望者の**教育機会の喪失**につながり、地域への**人材輩出が途絶える**ことになり、地域にとっては重大な問題です。今後は、より一層、地方大学と地方自治体の連携を促進し、地域が一丸となって、**地方大学の生き残り**に対応する必要があると考えております。

そのような中、静岡県及び（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアムは、人口減少社会において産学官が高等教育を取り巻く課題を共有し、**県内大学等の将来について議論を深めるきっかけの場**として、12月８日に**「大学サミット」**を開催いたします。

「大学サミット」では、県内高等教育機関の学長、産業界、行政が参加し、**県内大学等の将来について議論することにより、恒常的な議論の場の構築を目指します。**

本アンケートは、大学と地方自治体の連携をより促進することを目的に実施するものですので、忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです。なお、いただいた御意見は市町名が判別されないように集計した上で、**「大学サミット」**での共有をはじめ、県内高等教育の振興のために活用いたします。

はじめに、回答者の属性等についてお伺いします。

自治体名	
回答者氏名	
担当者氏名	
担当者所属	
電話番号	
メールアドレス	

※Ｑ１～３については、首長様の御意向を踏まえて御回答願います。

※Ｑ４については、事業部門御担当者様に御回答願います。

Ｑ１：県内大学等への関心についてお伺いします。【ひとつ選択】

① 関心がある　　□

② 関心がない　　□

Ｑ２：県内大学等に対する評価と期待についてお伺いします。

２－１．現状の評価について、特に地域に貢献していると考えるものを３つまでお選びください。

地域の高等教育機関として	特に貢献している項目
①地域の高校生の進学先	□
②地域の企業や自治体への人材供給（日本人学生）	□
③地域の企業や自治体への人材供給（留学生）	□
④社会人の学び直し、スキルアップ	□
⑤公開講座、講演会等	□
⑥地域コミュニティの課題解決	□
⑦地域企業の課題解決	□
⑧学生等による地域活性化	□
⑨大学施設の地域への開放	□
⑩その他（※①～⑨に当てはまらない内容があれば、記入してください。）	□

２－２．今後の期待について、今後、特に地域への貢献を期待するものを３つまでお選びください。

地域の高等教育機関として	特に貢献を期待する項目
①地域の高校生の進学先	□
②地域の企業や自治体への人材供給（日本人学生）	□
③地域の企業や自治体への人材供給（留学生）	□
④社会人の学び直し、スキルアップ	□
⑤公開講座、講演会等	□

⑥地域コミュニティの課題解決	□
⑦地域企業の課題解決	□
⑧学生等による地域活性化	□
⑨大学施設の地域への開放	□
⑩その他（※①～⑨に当てはまらない内容があれば、記入してください。）	□

２－３．今後、地域活性化のため県内大学等に期待したいことを記入してください。

Ｑ３：県内大学等と地域社会が連携する上での改善点等についてお伺いします。

３－１．大学の側にあると思われる改善点等について、特に当てはまるものを３つまでお選びください。

課題等	特に当てはまる項目
①地域連携のビジョン（考え方、姿勢）が十分でない	□
②地域と連携するためのノウハウやコーディネート機能が十分でない	□
③教員の地域連携への関心が低い	□
④地域ニーズに応えるような特色ある研究が少ない	□
⑤教員の研究分野・研究課題が分かりづらい・PR や情報発信の不足	□
⑥地域から見て敷居が高い	□
⑦地域が必要とする学部・学科・プログラムが十分でない	□
⑧立地的に県内大学まで遠い	□
⑨その他（※①～⑨に当てはまらない内容があれば、記入してください。）	□

３－２. 地域の側にあると思われる改善点等について、特に当てはまるものを３つまでお選びください。

課題等	特に当てはまる項目
①県内大学等の活用を考えたことがない	□
②大学と交流するためのノウハウが十分ではない	□
③県内大学より県外の他大学との交流を望んでいる	□
④大学の研究成果を活かせるような受け皿（機会・体制）が地域に少ない	□
⑤連携のための予算が十分に確保できない	□
⑥その他（※①～⑨に当てはまらない内容があれば、記入してください。）	□

３－３．どうすれば県内大学等と地域社会の連携が進むか、御意見を記入してください。

Ｑ４：県内大学等との連携事業について

※　この設問は、必要に応じ、事業部門御担当者様と相談の上御回答ください。

４－１：県内大学等との連携実績 及び その満足度についてお伺いします。【当てはまるものを選択】

事業等	実績あり				実績なし
	満足	やや満足	やや不満	不満	
①受託事業（※） ※大学等が外部機関から経費等を受け入れ、委託者に係る事業の委託を受け行う事業	□	□	□	□	□
②各種委員会委員、技術助言者等への就任及び講演等の依頼	□	□	□	□	□
③大学院への職員の派遣	□	□	□	□	□

④大学等との共催事業（講演会、フォーラム等）の実施	□	□	□	□	□
⑤ゼミ・研究室等地域貢献推進事業（※）の活用 ※　ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する、県内の地域課題及び解決方策の提言や課題解決の研究を行うゼミナール等を募集する事業	□	□	□	□	□
⑥地域で実施されるフィールドワークなど教育プログラムの内容	□	□	□	□	□
⑦自治体におけるインターンシップ、実習生の受入 ＜受入分野：　　（※御記載願います）　　＞	□	□	□	□	□
⑧学生ボランティア等の受入	□	□	□	□	□
⑨学生（ゼミ・サークル等）との交流・連携	□	□	□	□	□
⑩リカレント教育（社会人の学び直し）に関する連携	□	□	□	□	□
⑪DX（デジタルトランスフォーメーション）、IoT・AI 活用等の職場内のデジタル化に向けての推進に関する連携	□	□	□	□	□
⑫SDGs や CSR 等と関連した連携事業	□	□	□	□	□
⑬その他（　　）	□	□	□	□	□
県内大学等との連携に係る令和６年度予算額を御記載ください（総額）	千円				

４－２：県内大学等と今後連携を希望する取組についてお伺いします。【当てはまるものを選択】

事業等	希望する	希望しない
①受託事業（※） ※大学等が外部機関から経費等を受け入れ、委託者に係る事業の委託を受け行う事業	□	□
②各種委員会委員、技術助言者等への就任及び講演等の依頼	□	□
③大学院への職員の派遣	□	□
④大学等との共催事業（講演会、フォーラム等）の実施	□	□
⑤ゼミ・研究室等地域貢献推進事業（※）の活用 ※　ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する、県内の地域課題及び解決方策の提言や課題解決の研究を行うゼミナール等を募集する事業	□	□

⑥地域で実施されるフィールドワークなど教育プログラムの内容	□	□
⑦自治体におけるインターンシップ、実習生の受入 ＜受入分野：　　（※御記載願います）　　＞	□	□
⑧学生ボランティア等の受入	□	□
⑨学生（ゼミ・サークル等）との交流・連携	□	□
⑩リカレント教育（社会人の学び直し）に関する連携	□	□
⑪DX（デジタルトランスフォーメーション）、IoT・AI 活用等の職場内のデジタル化に向けての推進に関する連携	□	□
⑫SDGs や CSR 等と関連した連携事業	□	□
⑬その他（　　）	□	□

４－３：今後、どうすれば県内大学等との連携が進むか、御意見を記入してください。

４－４：県の大学行政、県内大学等に対しての御意見を記入してください。

アンケートは以上となります。御協力いただき誠にありがとうございました。